

豆一俵物語・反一俵の大豆の増収で会津を元気にしよう



だいでず通信 第3号 (通算60号)

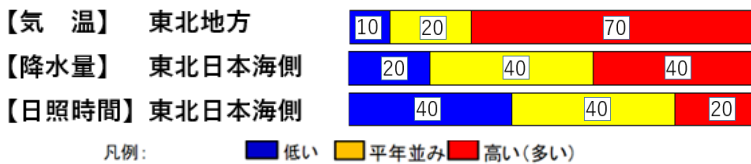
(令和4年8月5日)

会津若松市・磐梯町・猪苗代町・JA会津よつば(あいづ地区)
福島県農業共済組合会津支所・全農福島県本部会津営農事業所
福島県会津農林事務所農業振興普及部

国産大豆の需要が高まっています。大豆生産を拡大しましょう！

<東北地方1か月予報<仙台管区气象台 R4.8.4発表>

<向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



- 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 平均気温は高い確率が70%です。
- 降水量は平年並みか多い予報です。
- 日照時間は平年並みか少ない予報です。

○7月の気温○

気温は平年より高くなりました。日照時間は7月第4半旬までは平年より多く、第5,6半旬は少なくなりました。降水量は第3半旬を除き平年より少なくなりました。

今後は高温になる可能性がありますので、「高温乾燥」「台風の襲来」「害虫被害の発生」などに注意して、管理を行いましょ。

これまでの生育状況

- ・ウコンノメイガなどの食葉性害虫による葉巻や食害がみられています。
- ・開花期は、作柄判定ほ(会津若松市神指地内、6月2日播種 品種:あやこがね)で7月24日となり、平年並となりました。(平年7月25日)

★★今後の栽培管理のポイント★★

- 天候に合わせた土壌水分管理により、干ばつや湿害を回避しましょう。
- ほ場をよく観察し、適期に病害虫防除を行いましょ。

土壌水分管理

大豆は、開花期～黄葉期(特に子実が肥大する時)には多量の水を必要とします。土壌の乾燥が続く場合にはかん水を行いましょ。

開花期以降に乾燥が続くと・・・

落花・落莢の増加



着莢数・粒数減少
百粒重の低下
青立ちの発生



収量・品質低下

<降雨が少ない場合>

- ・降雨が少なく、土壌が白化したり、葉の裏返りや葉巻が見られたら、迷わずにかん水を行いましょ。
- ・かん水は気温、地温の下がる夕方に行い、暗きよを閉じてほ場周囲の明きよや、畦間にかん水しましょ。
かん水は数回にわけて、徐々にほ場全体に水が行き渡るようにし、過湿とならないよう注意しましょ。

<台風や集中豪雨等で浸水・冠水した場合>

- ・ほ場が浸水又は冠水した状態が続くと、湿害による葉の黄変・枯死や生育抑制等が発生します。
- ・降雨前後に排水溝や明きよを点検し、排水が滞らないようにしましょ。水が溜まったところは、速やかに排水を促進しましょ。

病虫害防除

<薬剤による防除の例> (主な防除薬剤の例は表を参照)

- ・害虫防除・・・着莢期～子実肥大盛期に10日間隔で2～3回行いましょう。
- ・紫斑病防除・・・開花期以降から成熟期までに降雨が続くと発生が多くなります。
開花期後20日～40日に1～2回防除を行いましょう。

※ほ場をよく観察し、多発ほ場では防除を追加するなど対策を講じてください。

☆防除時期の目安☆

害虫防除・・・1回目：8月中旬 2回目：8月下旬 3回目：9月上旬
紫斑病防除・・・1回目：8月中旬 2回目：9月上旬



表 主な防除薬剤の例

薬剤名	適用病虫害	使用方法	使用時期
アミスタートレボン SE	紫斑病、カメムシ類、 マメシンクイガ	散布	収穫14日前まで
		無人航空機による散布	収穫21日前まで
アミスター20フロアブル	紫斑病	散布	収穫7日前まで
		無人航空機による散布	
プレバゾンフロアブル5	ウコンノメイガ マメシンクイガ	散布	収穫7日前まで
		無人航空機による散布	

※ 紫斑病防除は、薬剤が莢に充分付着するようにしましょう

★農薬危害防止運動実施中です!! (6/10～9/10)

農薬は周りに配慮し、正しく使用しましょう。散布にあたってはドリフトを防止するとともに、周辺環境へ配慮し、人やミツバチ等へ危害が及ばないように十分注意してください。

農薬の最新の登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。また、農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。

!! 農作業中の熱中症に注意しましょう!!

暑い日が続いています。作業前・作業中はこまめな水分補給や休憩をとりましょう。
熱中症警戒アラート等の情報を確認し、日々の体調管理に一段と気をつけましょう。